

ロッシーニ 《教皇ピウス9世に感謝する歓喜の叫び》 作品解説

水谷 彰良

初出は『ロッシニアーナ』第11号（1998年）所収の拙稿『ロッシーニ全作品事典(6) 第IV部門：讃歌と合唱曲』。増補改訂して楽譜を加えた決定稿をHPに掲載します。 (2012年1月改訂)

題名 《教皇ピウス9世に感謝する歓喜の叫び (*Grido di esultazione riconoscente al Sommo Pontefice Pio IX*)》 (〈さあ兄弟たち、歓喜の歌を歌おう *Su fratelli, letizia si canti*〉)¹

別題：《ピウス9世への民衆讃歌 (*Inno popolare a Pio IX*)》(解説参照)。

作曲 1846年7月(23日以前)、ボローニャ

作詞 ゴルフィエーリ (Golfieri [フルネームと生没年不詳。解説参照]) イタリア語

初演 1846年7月23日(木曜日) ボローニャ、マッジョーレ広場 (Piazza Maggiore)

編成 混声合唱、管弦楽

構成 変ホ長調、4/4拍子、アレグロ・マエストーゾ (下記の初版楽譜に基づく)

演奏時間 約4分

自筆楽譜 (未発見または消失) 註：重要な筆写譜所蔵は、ボローニャ市立音楽図書館 (Bologna, Civico Museo Bibliografico Musicale, UU7)。

初版楽譜 Gazzetta Musicale di Milano, anno VI, 1847. 及び Giovanni Ricordi, Milano, 1847.

註：共にピアノ伴奏譜。《ピウス9世への民衆讃歌 (*Inno popolare a Pio IX*)》と題して出版 (図版参照)。

全集版 (未成立)

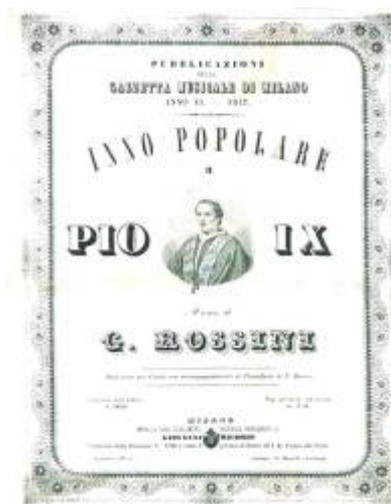
解説

1831年4月にジュゼッペ・マッツィーニ (Giuseppe Mazzini, 1805-1872) が亡命先のマルセイユで組織した「青年イタリア (La Giovine Italia [Giovane Italia])」は、カルボネリーア (炭焼き党) の掲げる立憲君主制ではなく、共和制による統一国家樹立を目指す近代的な政治結社であった。プロパガンダと蜂起を両軸とした青年イタリアの活動は、1833年と34年の蜂起失敗と弾圧により挫折を余儀なくされるが、共和革命や国家統一運動 (リソルジメント) の理念は知識人と自由主義者の間に広く浸透していった。1840年代には共産主義的な思想も加わって暴動が多発、1844年のバンディエーラ兄弟の反乱失敗と首謀者たちの銃殺が人々に同情の念をかきたてた。

1846年6月1日、保守的だった教皇グレゴリウス16世 (1765-1846。在位1831-1864) が没すると、これをきっかけにイタリアは穏健改革派と急進派のせめぎ合う不安定な政治状況に陥った。同月16日、後継の教皇に選出されたピウス [イタリア語読みはピーオ] 9世 (Pio IX [本名ジョヴァンニ・マリーア・マスタイ・フェッレツィ *Giovanni Maria Mastai Ferretti*], 1792-1878。在位1846-1878) は、穏健改革派の支持を受けて教会国家の改革に着手した。新教皇は7月16日に政治犯の大赦をもって治世を始めると、民衆は「覚醒した教皇」として歓迎し、イタリア全土でピウス9世を支持するデモンストレーションを連日繰り広げた。

その熱狂はボローニャに波及し、ロッシーニは友人たちの求めに応じて管弦楽伴奏の合唱曲《教皇ピウス9世に感謝する歓喜の叫び (*Grido di esultazione riconoscente al Sommo Pontefice Pio IX*)》を作曲した (実際は旧作の改作)。作詞者ゴルフィエーリ (Golfieri, ?-?. [フルネーム不詳]) は、ボローニャのアカデーミア・フィラルモーニコの監督を務める聖職者である²。初演は1846年7月23日、ボローニャのマッジョーレ広場にてロッシーニ自身の指揮で行われ、熱狂的な成功を収めた (年代記によれば、演奏者の数は500人であった)。

楽曲は旧作《湖の女》(1819年) 第1幕フィナーレの吟唱詩人の合唱 (Coro di Bardi) (すでに無限の輝きの先触れをなす光が (*Già un raggio forier d'immenso splendor*)) に前奏と終結部分を足し、管弦楽に手を加えたものである



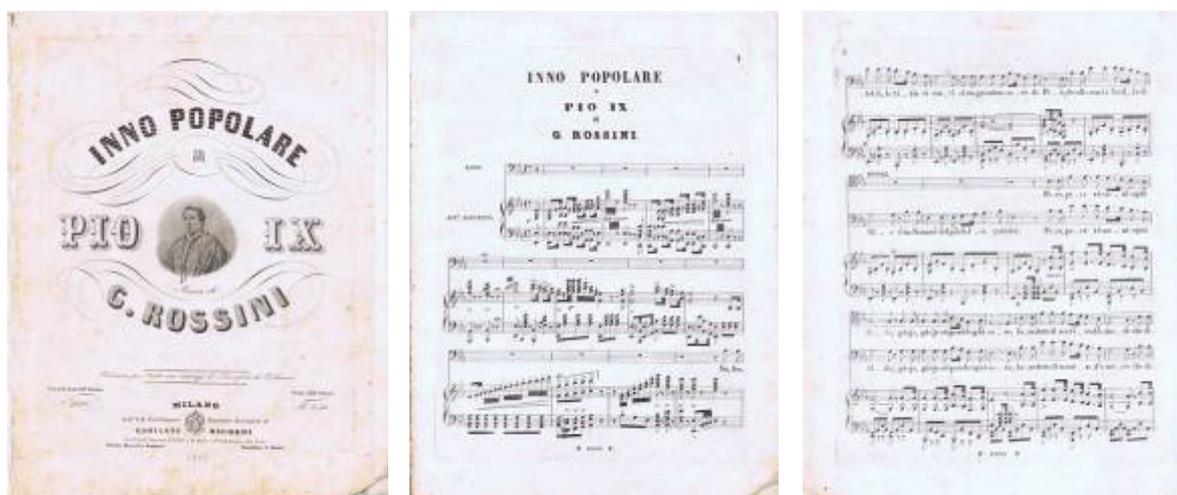
『ミラーノ音楽新聞 第4年』(1847年)
掲載楽譜のタイトル頁

(変ホ長調、4/4 拍子、アレグロ・マエストロ)。その改変はこれが最初ではなく、1844 年の《タッソ生誕 300 周年のための合唱曲 (Coro per il terzo centenario della nascita di Tasso)》でも行われていた (1844 年 3 月 11 日トリノのカリニャーノ宮殿初演)。ロッシーニは同年秋、新たに教皇ピウス 9 世に捧げるカンタータを作曲することになるが、これについては別稿 (当HP掲載の《教皇ピウス 9 世を讃えるカンタータ》作品解説) を参照されたい。

初版楽譜は翌 1847 年にリコルディ社の『ミラーノ音楽新聞 第 4 年 (Gazzetta Musicale di Milano, anno VI)』に掲載されたものと同社の印刷楽譜の二つがあり、どちらも《ピウス 9 世への民衆讃歌 (Inno popolare a Pio IX)》と題されている (共にピアノ伴奏譜。この二つはタイトル頁のデザインが異なるだけで、楽譜部分は同じ原版 [プレート番号 19469] から印刷)。覚醒教皇の誕生にヨーロッパ中の注目が集まったことから各国の出版社が新たに楽譜を出版し、パリの週刊誌『ラ・スメンヌ (La Semaine)』第 3 年第 1 号 (1847 年 11 月 7 日付) はクレヴェル・ド・シャルルマーニュ (Crevel de Charlemagne, 1806-1882) のフランス語テキストによる縮約楽譜を『ピウス 9 世への讃歌 (Hymne à Pie IX)』として掲載、マイントツの B.ショット社はその縮約楽譜に当たる印刷楽譜を刊行している (Hymne à Pie IX, Mainz, Chez les fils de B.Schott., s.d.[1847], n.p.9465。末尾にイタリア語テキストを伴う旋律を掲載。図版参照)。

日本初演は 1992 年 9 月 15 日、東京の中央会館にて、筆者プロデュースの「ロッシーニ生誕 200 年記念ガラ & シリーズコンサート 1992」第 5 回演奏会で行われた (シリーズコンサート V: 松井徹/藤本直美指揮 武蔵野音楽大学室内合唱団。ピアノ: 金井紀子)。

推薦ディスク: なし (未録音?)



リコルディ社の初版楽譜タイトル頁と楽譜の冒頭 2 頁 (1847 年。筆者所蔵)



『ラ・スメンヌ (La Semaine)』第 3 年第 1 号の掲載楽譜 (パリ、1847 年 11 月 7 日号。筆者所蔵)



B.ショット社による縮約版のタイトル頁と楽譜(1847年。筆者所蔵)

Collezione privata Akira Mizutani, Tokyo

¹ ゴセット目録 (Grove, 2001) は題名としてインチピトの〈*Su fratelli, letizia si canti*〉のみを掲げたが、全集版 II-6: *Cantata in onore del Sommo Pontefice Pio Nono*, Fondazione Rossini, Pesaro, 1996. 序文における題名表記を採用した。

² ゴセット目録は作詞者を Canonico Golfieri としたが、ここでの canonico は聖職者 (司教座聖堂参事会員) を意味し、人名と解するのは誤り。